

FAJ 定例会 AI×ファシリテーション

今年6月、理事を務めているFAJ（日本ファシリテーション協会）の全国イベントで「AI×ファシリテーション」のワークショップを行いました。ファシリテーターにとって、貴重な材料となるデータを出していただき、客観的にふりかえりができました。その後FAJの中でいくつか引き合いが来ています。その中の一つをご紹介します。

☆今回のAIは

「AI×ファシリテーション」でFAJの中では、名古屋工業大学の白松先生とご一緒させていただいてきました。今回は、先生のご友人でご研究のパートナーでもある、ハイラブル社 (<https://www.hylable.com/>) の水本社長のシステムを使わせていただきました。

もともとは対面での話し合いで使っていたのですが、オンラインに切り替わってからはオンラインの会議で活用されているとのことでした。

会議での個別の発言量がリアルタイムで見える。見ながら会議ができる。というもので、「あ、この人あまり発言していないな。ちょっと意見を聞いてみよう」ということができます。

また、〇〇さんの発言後、みんなが意見を言い始めた。「〇〇さんの発言はみんなが関心のあること、会議のポイントだったんだ」ということが見えます。

☆定例会では

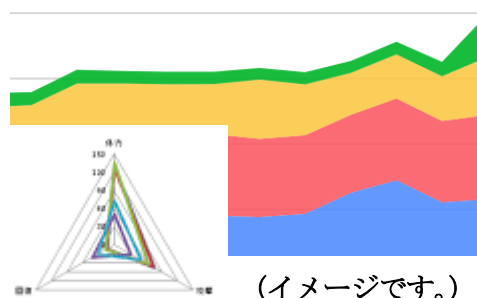
ハイラブル system を体験後、フィッシュボウル（一つのグループの話し合いを観察者が細かく事実をメモしてふりかえるという方法）を行います。その後、ハイラブルさんのデータを見て、フィッシュボウルの中の人たちと観察者の人たちそれぞれでふりかえりを行います。そして、共有。これを2クール行いました。

やってみると、ファシリテーターの話の振り方やその後の話し合いの盛り上がり方まで、じっくりとふりかえることができました。

☆どんなふりかえりになる？

出てきたデータを見ると、「ターニングポイントの発言は〇〇だった。」「みんなの話がファシリテーターを中心に回っているね」などが見えます。

ファシリテーターとしてどのように、ふるまうのがこのとき適切だったのだろうか？ということが見えてきます。客観データは感情がないので、冷静に受け止めることができます。



*とっても貴重で楽しい、学びにも活用できるこのシステムにめぐり合わせてくださった、名古屋工業大学の白松先生、開発してくださった（株）ハイラブルの水本社長に感謝です。